

## 個人情報を含む文書の誤送信について

### 1 事案の概要

- (1) 令和2年8月14日、介護等体験事業において体験先施設の変更通知を各大学へメールにて送付していたところ、誤って21大学分の学生名、学籍番号が入った名簿を別の大学1校に送信する事案が発生しました。
- (2) 令和2年8月13日、同じく介護等体験事業において体験先施設の調整が必要な学生名をメール本文に記載し、別の大学1校に送信する事案が発生しました。

### 2 発生原因

- (1) 21大学分を誤送信した事案については、別の大学宛のメールのCCにその大学の別の担当者のアドレスを入れて送信しました。送信したメールを再利用したことにより、その後送信した21大学宛のメールにその担当者のCCが残った状態で、21大学にメールを送信したため、介護等体験事業に参加する学生の一覧がCCの宛先である大学にも送信されることになりました。送信された大学から連絡を受けたことで、メールの誤送信があったことを把握しました。
- (2) もう一つの事案については、メールの送信はエクセルで管理しているメールアドレスをコピーして貼り付けて行っていました。そのエクセルデータに誤りがあり別の大学に誤送信してしまいました。誤送信を受けた大学から8月17日にメールで連絡があり、誤送信が発覚しました。

### 3 対応：関係者への説明とお詫び

- (1) 21大学分を誤送信した事案については、誤送信の連絡を受けた大学に、謝罪のうえ状況の説明と誤送信のメールの削除をお願いし、添付したデータを開封せずにメールの削除を依頼しました。後日、本会職員が大学を訪問し確認しました。8月21日までに21すべての大学にも電話にて状況を説明し、謝罪しご了解を得ました。
- (2) もうひとつの事案については、8月18日に誤送信の連絡を受けた大学に、謝罪のうえ状況の説明と誤送信のメールの削除をお願いし、ご了解を得ました。同日、本来送信すべき大学に対しても電話にて状況を説明し、謝罪しご了解を得ました。

### 4 再発防止策

誤送信を防ぐため、送信メールの再利用は一切行わないこととしました。あわせて個人の氏名を含むメールの送信については、複数職員によるダブルチェックを行ったうえで送信することを徹底します。送信するメールに添付するデータについては、各大学共通のパスワードではなく各学校固有のパスワード設定を行い、リスクの軽減を図ります。

また、個人情報の取り扱いに関して、その他の事務手順等についても再点検を行うとともに、個人情報の取り扱いなどについて研修を行うなど、再発防止に努めていきます。

[本件に関する問合せ先]

社会福祉法人 東京都社会福祉協議会

東京ボランティア・市民活動センター（長谷部、佐藤）

TEL03-3235-1171